

きゅうりこれからの管理

【露地・雨除け胡瓜について】

露地及び雨除けでの灌水量不足は、不良果の発生に繋がります。通路が常に湿っている状況ができるくらいの灌水を行っていきましょう。また雨除けにつきましては、ハウス内が高温状態ですので、換気が不十分であっても不良果の発生に繋がります。妻面の開口部分を多くしましょう。ただし、害虫対策のため防虫ネットの設置をお願い致します。

整枝作業については、主に摘葉を中心に作業をし、摘芯作業につきましては伸び過ぎた枝を中心に行ってください。半放任状態でも構いません。

追肥につきましては、液肥だけでは肥料分が不足する場合がありますので、通路肥または置き肥を行いきましょう。また、草勢維持のために葉面散布を定期的に行いましょう。

曇雨天が続く場合は、葉が軟くなり葉色も薄くなってきます。葉を固める場合は銅剤の散布、葉色を乗せる場合は尿素500倍散布を行ってください。

収穫後については、品質低下を防ぐ為の保持対策を講じて下さい。

葉面散布剤：パワフルグリーン 500～1,000倍 ベストⅡ 500～1,000倍

【抑制胡瓜について】

陽熱消毒を行っている圃場につきましてはマルチの除去を最低定植10日前には行って下さい。定植前に植穴灌水を行います。定植前日1回だけの灌水では不十分な場合が考えられます。2～3回に分けて灌水を行っておくと良いでしょう。特に、ポリ被覆の方につきましてはハウス内は乾燥していますので、十分な灌水量が必要となります。

定植後は高温乾燥による苗の萎れや活着不良が多く見られます。活着するまでは鉢土が乾かないように注意しましょう。日中萎れが激しい場合は葉水を行い、それでも萎れる場合は通路散水を行い、湿度を確保しましょう。また、蒸散抑制剤の使用も検討しましょう。

活着後親枝摘芯までは軟弱徒長させないように温度・水管理には注意しましょう。

銅剤で葉を締めることもお勧めします。

側枝の整枝作業については、下段は1節、中段は1～2節、上段は1節止めとし特に上段は摘み遅れると過繁茂になりがちになりますので、注意して下さい。

蒸散抑制剤：プロテック 200～300倍（単剤使用）

【促成胡瓜について】

促成胡瓜につきましては播種時期となってきました。圃場準備の遅れによる定植遅れがない様、計画的に作業を行ってください。

【病虫害防除について】

今年は、7月に少雨だった為、アブラムシ・ヨトウムシ等の発生が多くなる可能性がありますので、スリップス防除とは別に他の害虫対策も併せて行いましょう。

ハウス内及びハウス周辺の除草対策を定植前には必ず行っておきましょう。周辺圃場への気配りも行うことが大切です。御協力下さい。

定植前には防虫ネットが破損していないかの確認を行ない、事前に粘着板の設置も行っておきましょう。

黄化えそ病を初めとするウイルス病の発生株は早期発見・早期抜根に心がけて下さい。判別が困難な場合はご連絡下さい。

果樹園の管理(9月)

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。9月の管理については以下の通りです。また、台風シーズンとなってまいりますので事前に対策等を十分に行ってください。

中晩柑

1. 仕上げ摘果

再度、小玉主体にて摘果し、L級以上生産に努めましょう。

新梢数が多い樹は、果実の日当たりと防除効率を考慮し、枝抜きを行いましょう。

2. かん水

土壌が極端に乾燥してしまうと、果実肥大及び減酸に悪影響を及ぼします。乾燥が続く場合は10日おきを目安に、10a当り20t程度のかん水を行いましょう。かん水設備が無い園地では土壌水分がある内に敷草等を行い、乾燥防止に努めましょう。

3. 病害虫防除

8月中旬～9月上旬は、ミカンハダニ、サビダニ、スリップス、黒点病の重点防除となります。本年はハダニの発生が多くなっています。発生前の予防に重点をおき、散布ムラのないように丁寧に散布して下さい。かいよう病にかかりやすい品種（スイートスプリング等）は、**台風襲来前**に必ず薬剤散布を実施して下さい。

落葉果樹

1. ブドウ

1) 成熟期の土壌水分

成熟期にはかん水を少し控えめに行い、土壌をやや乾燥気味に保ち、糖度の上昇や着色を促します。

過度の乾燥は果粒肥大不足、糖度不足となります。乾燥が続くようであれば、7～10日間隔で10a当り10～15t程度のかん水を実施して下さい。

2) 裂果対策

成熟期の果実の裂果は土壌水分の急激な変化や長雨などが主原因で発生します。過度の乾燥が無いよう、定期的なかん水によって土壌水分を適湿に保ちましょう。

2. マンゴー

1) 温度管理

マンゴーの光合成は昼は25～32℃が盛んで、35℃以上で低下します。天井の被覆されているハウスでは、葉やけの恐れがある場合は、日よけを行ってください。

(通気が悪くならないように注意)

※農薬の使用については、使用基準（適用作物、使用回数、使用回数、収穫前使用日数等）を守って使用してください。

露地野菜生産者のみなさまへ

昼夜を通し、例年を上回る高温と少雨により収穫や生育中の作物、今後の作付準備等に影響が出ており、対応が大変な事と思います。

高温、乾燥状態による害虫の発生も見られています。圃場周辺の環境整備や、フェロモントラップの設置、灌（散）水が可能な圃場は灌（散）水を行い作物の生育や作付の準備に必要な水分の確保に努めて下さい。（夕方からが効果的です）

秋冬播きの作物はリレー作付・出荷に取り組むものが多く、播種日等が決められているものがありますので、播種日を守り、適期収穫に努めて下さい。

まだまだ暑い日が続きます。体調に留意しながら作業を行って下さい。

これからの管理

・白ネギ・



最初の土寄せ・追肥を行った後、20～30日間隔で除草と同時に土寄せを行い、軟白部分の確保に努めて下さい。

暑い時期ですので、一度に多くの土を寄せると草勢が弱ることが考えられます。暑さの厳しい間は手間がかかるとは思いますが、寄せる土の量を少なめに行うことをお勧めします。但し、寄せる土の量が少なすぎると、収穫時に軟白部分が出荷基準より短くなることもありますので、今後の気候や生育状況を見て作業を行って下さい。

追肥は、生育状況を考慮して行います。有機肥料の肥効期間は30～50日間です。

気温が下がると軟白しにくくなりますので気温の高い時期になるべく土寄せを行い、品質の向上に取り組みましょう。

雨後は草勢が低下し、病気の被害が出易くなります。天候の回復後、作物活性剤の葉面散布等を行い、草勢の回復に努めましょう。

・人参・



発芽時のヨトウムシによる食害が増えています。農薬の使用はできませんので、圃場周辺の環境整備等予防に重点を置いて下さい。

8月上～中旬播種は間引き・除草に重点を置いて下さい。品質を上げるための重要な作業ですので、必ず行うようにして下さい。

最終間引きは株間8～10cmです。

・里芋・



白芽は収穫が遅れると子芋の種芋化が起り、水晶芋（煮えない芋）や品質低下（割れなど）となります。適期収穫を行うようにして下さい。

本年は、芋の肥大期に雨が少なく、品質面に影響が出ている可能性も考えられますので、出荷時には注意をお願いします。

石川早生を作付されている場合、水晶芋の発生が多くなりクレームの原因となりますので、子芋（出荷A品のもの）の試食を行い、各自で水晶芋の発生を確認して下さい。

赤芽は11月下旬頃からの収穫になります。

【病害虫防除】

高温・乾燥が続くとアブラムシ、スリップス、ダニ、ヨトウムシ等が発生します。予防策を十分に行ってください。

○アブラムシ …………… シルバーテープの設置（反射する光を嫌い、寄生が抑制される）

※作物に近い位置の設置が効果的です。

○ヨトウムシ …………… フェロモントラップの設置（雄成虫の捕獲により繁殖を抑える）

○ダニ・スリップス …… 葉や茎に寄生します。草勢が良く極僅かな発生なら生育への影響は少ない

と考えられますが、増殖が早いので多発後の対応は困難となります。

○コナガ類 …………… 粘着シートを使用し、誘引捕殺して下さい。

作物に近い位置に設置すると効果的です。

※事前対策等もありますので、周辺に雑草が多い圃場や前年に害虫の発生が多かった圃場などは、肥料散布前に連絡をお願い致します。